

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2376300246
法人名	(有)ネクストサプライ
事業所名	グループホーム 東栄の家
訪問調査日	平成 19 年 4 月 5 日
評価確定日	平成 19 年 4 月 13 日
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年4月8日

【評価実施概要】

事業所番号	2376300246		
法人名	(有)ネクストサプライ		
事業所名	グループホーム 東栄の家		
所在地 (電話番号)	愛知県北設楽郡東栄町本郷久保田10-7 (電話) 0536-77-0150		
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成19年4月5日	評価確定日	平成19年4月13日

【情報提供票より】(平成19年3月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	26 人
職員数	20 人	常勤	16 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 17.1 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	平屋 造り

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	52,000円(食材費含む)	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 200,000 円	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(3月19日現在)

利用者人数	26 名	男性	10 名	女性	16 名
要介護1	8 名	要介護2	12 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	64 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東栄町国民健康保険 東栄病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ホームの経過を同じ人に見続けてほしい」とのご希望もあり、前年度評価に続き、同評価調査員での訪問となった。
豊かな自然環境、地域との一体化が可能なホームの立地条件、広い敷地に3ユニット平屋建ての住みやすさ等のハード的特長と、中で暮らす利用者・職員の明るさ、賑やかさの基であろう『和を大切にした関係作り』の介護は、色あせることなくホームの特徴となっている。好天に恵まれた訪問調査当日、駐車場のフェンスいっぱい利用者の布団が干され、開け放された窓からは大らかな笑い声が響いていた。ホーム内に入らなくても、まさに『利用者の住居』を垣間見た感があり、再び訪れる事ができた嬉しさを心から思った。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、ホーム理念の明示・啓発の推進、および、地域でのグループホームの役割の確認・検討・還元といった、認知症高齢者介護のプロとしての地域との関りを改善課題として提案させていただいた。その後一年間の間に様々な取り組みに挑戦し、今回評価では、課題解決のための、ホームから地域への積極的な働きかけと効果を確認できた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・ユニットリーダーが自己評価作成に当たり、作成後には各ユニット、さらには全体での協議を行っている。訪問調査時の管理者ヒアリングでは「介護の振り返りになる」との感想もあり、自己評価の意味を理解した具体的な取り組みの継続に意欲がある。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	昨年7月より2ヶ月に一度の開催を実施している。ホームの事業報告が主な議題となっており、現時点では運営推進会議の討議・協議を活かした具体的・継続的取り組みにまでは至っていない状況が否めない。しかし、運営推進会議を通じて町行政・地域との情報交換は適切に行われ、地域行事への参加等が推進されている。グループホーム・認知症高齢者への理解・協力依頼、地域交流、行政との関係作り等、運営推進会議を通じた効果は大きい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームと家族との関係は良好であり、家族の意見・要望・苦情等は口頭での直接聴き取りが主な手段となっている。聴き取られた情報は、ホーム全体で協議され、改善の必要性を結論付け、介護方針・対応に反映させている。しかし、全ての家族に対する平等な聴き取りには至っておらず、意見箱・アンケート、意見・要望・苦情申し立ての方法提示等、「意見を言いやすい」体制作りの確立が望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の商店街利用、イベント見学・参加、地域からの見学受け入れ等で地域の人々との馴染みの関係作りを推進している。また、保育園・小学校との交流も行われ、小学生の生涯教育受け入れでは、授業外でも小学生がホームを訪ねてくるようになったという効果も出ている。現在は地域との連携に対し、検討・推進途中であるが、災害・緊急時等に、馴染みの関係になった地域と連携できる体制作りの確立が期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったりと楽しく」、「自由にありのまま」、「仲間と一緒に暮らす」をホームの基本的な考えとし、この理念を具体化した、介護における方針をホーム内や玄関の見やすい場所に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の新人教育において、ホームの理念を説明すると共に、常に理念に基づいた介護に努めている。また、リーダーミーティング・朝礼等においても、折に触れ理念・方針についての話をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭り・防災訓練・町主催のイベント等の見学・参加を始め、町の文化祭には利用者の作品を展示する等の積極的な取り組みがある。また、小学校や保育園の運動会見学・小学生の生涯学習受入れ・見学の受入れ等、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は、ミーティング等で報告すると共に、全職員に回覧し、改善への意識付けを行ない、管理者を中心として、全職員でホームの改善に向け、意欲的に具体案の検討や実施を進めている。前回評価の改善提案事項であった地域との交流が大いに進んだことは、改善に取り組んだ結果である。		今年度の取り組みを活かし、一課題に一改善の取り組みではなく、自己評価結果・外部評価結果に関する話し合いの場を多くし、常に改善への具体的な方法の検討が望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、ホーム状況に関する意見交換が行われている。地域との交流を協議し、町の文化祭への利用者作品展示は、推進会議からの成果と考えられる。しかし、現時点では、施設状況や意見交換が主になっており、今後更なる会議活用が期待される。		ホームからの報告にとどまることなく、今後の会議内容が、ホームの課題解決(困っている点)に対して、町の考え・地域の考え等の協議をテーマとして推進して行く等、具体的な取組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム管理者が、町職員、病院関係者、地元の人との交流が深く、随時に役場を訪問し、顔つなぎと共にホームの話しをしている。また、地域包括センター職員との交流も積極的に行っている。		交流・良好な関係作りは進んでいることから、今後の取り組みの発展に期待するところである。町ぐるみでの高齢者介護の取り組みに至るような、ホームの特性を活かした関わり・参画が望ましく、ホーム側からの積極的な働きかけが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問は多く、訪問時には職員が声掛けし、暮らしぶりや健康状態について話しをしている。金銭の出納に関しても、都度確認を頂いている。また、毎月の請求書送付時には、管理者やリーダーが気付きとして便りを同封している。訪問の少ない家族には、随時に電話での連絡も行っている。		ホームだより等によって、ホーム全体の雰囲気や、定期的に家族に伝える手段の検討が望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には、職員がさりげなく家族と会話を行い、意見の言いやすい雰囲気作りにも努めている。家族意見から利用者の外出が増え、意見の反映がうかがえる。しかし、その他の積極的な取組みは、まだ行われていない。		郵送物の中へ御意見用紙やアンケートなどの同封、投函の見えにくい場所への意見箱の設置など、家族意見聴き取り・吸い上げの積極的な取組みの検討が期待される。また、行事参加お誘いばかりではなく、会議としての『家族会』開催も検討課題として提案したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が少なく、利用者にとって職員の異動による影響も少ない。管理者が職員の家庭状況を考慮した勤務体制を作るように努め、職員の希望・意見反映への努力が、職場満足・職員の定着率のよさを生み、職員の異動による利用者への影響を防いでいると考えられる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で決められた職員の採用時研修で、基本理念・一般規程・看護介護マニュアル等の研修を行い、管理者には、毎月の研修が行われている。行政からの研修案内は、職員全員に連絡している。また、管理者は、職員の知識習得の為に必要な書籍を置いておくなどのさりげないサポートも行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地域の老人保健施設、居宅介護支援事業所、デイサービスなどの福祉施設に訪問し、ネットワーク作りにも努めているが、他の職員同士の交流には至っていない。		同法人内の他事業所職員交流・地域の福祉事業所との交流が図れるような取組みから検討されてはと考える。レクリエーションの交流だけではなく、サービスの質の向上を目的とした、職員の交換研修・勉強会等、職員満足につながる取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者がホームに馴染めるようにする為、入居前にホーム内を見学してもらい、他の利用者や職員とお茶を飲んだり、会話ができるように配慮している。</p>		<p>入居時のタイミングや状況にもよるが、入居前に時間があったり、待機中の場合には、遊びに来てもらったり、職員が家庭を訪問し、会話するなどの、馴染み作りの検討が望まれる。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の意思を尊重しながら利用者の出来ることを職員と一緒にいき、時には、利用者が率先して家事を行っている。また、職員は、日々の生活の中で利用者から学ぶ場面を作り、実際に利用者から学びながら、共に支えあう関係作りを行っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ホームでは、入居時に利用者一人ひとりの希望や意向を聞き、その人に合った生活となるように努めている。日々の生活の中でそれとなく思いを聞いたり、何気ない話の中から気付いたことなどを含めて職員と共有し、検討を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成にあたっては、モニタリング、聴き取った利用者・家族意見を反映させながら、管理者・計画作成者・介護支援専門員・他の職員がカンファレンスを行い、介護計画の作成を行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の状況・状態が変化した場合には、計画の見直し期間を待たずモニタリングを行い、利用者・家族の意向を聞き、利用者の状態を考慮した計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態観察を行い、利用者・家族の意向を踏まえ、通院の手助けを行い、緊急時には、協力病院との24時間相談可能な体制をとっている。利用者の入院時には、早期退院に向けた話し合いを家族を含め病院と行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、利用者の受診医療機関を利用者・家族との話し合いで個別に決め、利用者・家族の納得したかかりつけ医となっている。協力病院への通院は、ホームで全て対応しているが、個別の病院への通院介助は家族の協力をお願いしている。		利用者の希望する個別の病院への通院においても、家族と相談の上、出来る範囲での通院支援が望まれる。直接的な通院支援ばかりではなく、利用者の緊急時を考えた、ホームと医療機関の関係作りを視野に入れた支援に期待したい。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは、終末期に向けた取り組みとして、方針の共有が図られている。しかし、個々の利用者・家族との話し合い、具体的な体制作りまでには至っていない。		まず個々の利用者・家族との終末期に対する話し合いを持つことが大切かと思われる。利用者・家族の終末期の希望の聴き取り、グループホームで対応できる事・できない事の説明、個別対応支援の検討等、利用者・家族を含めたグループホームの方針の共有が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者に対する言葉掛けや接し方に問題は感じられない。訪問当日も食べこぼしの介助やトイレの誘導もさりげなく行い、利用者一人ひとりのプライバシーに配慮した対応を行っていた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日常の流れがあるものの、利用者のペースを尊重し、利用者の希望に沿った生活ができるように配慮している。買い物・散歩等の外出希望においても、職員は可能な限り、その場での利用者個人対応に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいものを聞きながら日々の献立に盛り込み、食事は利用者の楽しみになっている。調理、配膳、後片付けも利用者の意思を尊重しながら一緒に行い、利用者のやる気の引き出しにも配慮している。また、食事は、職員と一緒に楽しく会話しながらの食事となっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	行事のある場合以外の入浴は毎日可能であり、利用者が入浴したい日に入れるように配慮している。また、気の合った利用者同士での入浴も行われている。しかし、一日の中で入浴可能な時間帯が決められているのは残念である。		職員勤務ローテーションの都合で入浴できる時間帯が限られていることが感じられる。もう少し入浴できる時間帯を延長できる勤務ローテーションの検討を期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力に応じて、掃除・洗濯・食事作り・配膳・片付けなどの家事全般を職員と一緒にやっている。また、楽しみごと支援として、畑作り・習字・編み物・折り紙・トランプ・カラオケ・体操など、一人ひとりの楽しみに合わせた取り組み・支援を継続している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの要望に合わせ、本人の好みの日用品・食べ物等の買い物、散歩、ドライブなど、できる限りの個別対応に努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム職員は、圧迫感のある生活が利用者にもたらす心理的不安をよく心得ており、日中に玄関の施錠は行っておらず、気候の良い時期には玄関扉を開放している。また、見守りをしっかり行い、出かけようとする雰囲気を感じた場合には、声をかけたり、一緒に出かけたりしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災・震災マニュアルが整備されている。さらに、グループホーム消防計画を立て、毎年2回、地域の消防分署に依頼し、利用者・職員を含めた消防訓練・通報訓練を行っている。また、地震等の自然災害に備え、非常食備蓄、避難場所の確認も行い、地域の人々との連携・協力の働きかけを進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは、高齢者向けであり、各ユニット毎にバラエティに富み、栄養のバランスが取れている。塩分、糖分、食事量等にも注意が注がれ、水分量は、一人ひとりの状態に合わせた補給が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、大きな窓から適度な自然光が入り、空調も適切に管理され、心地よい空間となっている。季節の花が、ホーム内のあちらこちらに活けられ、心なごむ雰囲気がある。また、壁には利用者の力作が掛けられ、我々の共用空間ですよと言っているようであった。リビングの掘りごたつ・ソファには利用者が集い、のんびりとくつろいでいる自然な様子が印象的であった。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は家庭で使っていた馴染みのものが持ち込まれ、一人ひとりの生活の継続に配慮した空間となっている。壁には写真や利用者の作品などが掛けられ、暖かい雰囲気をかもしだし、それぞれの個性が感じられる。		